

第4章 市民活動

4-1 ボランティア活動やNPO活動への参加状況

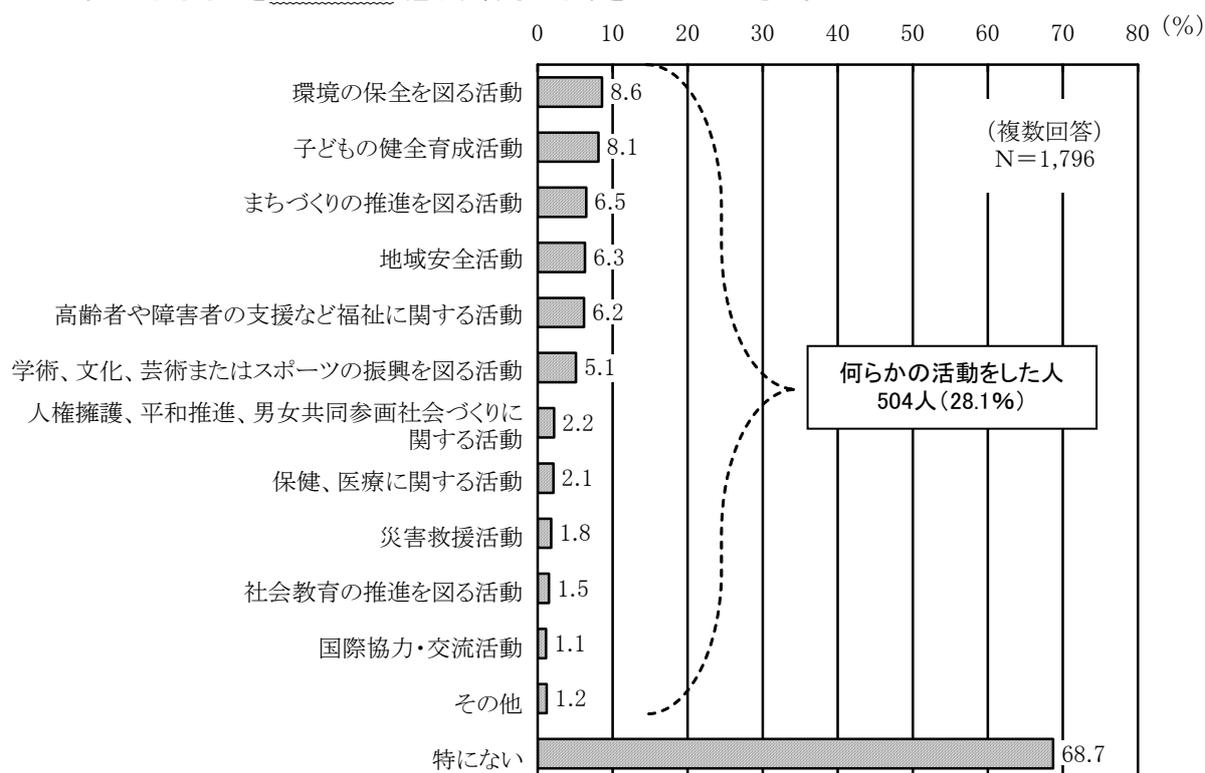
◆活動をしたことがある人は3割弱。きっかけは、「人に頼まれた、順番」、「生活に関わりがあった」が多い。

(1) ボランティア活動やNPO活動の参加経験

point

●何らかの活動したことがある人は28.1%。「特にない」が最も多く68.7%。

問14 次にあげるボランティア活動やNPO活動のうち、この1年間であなたが参加したものはありますか。あてはまるものをいくつでも選び、番号に○印をつけてください。

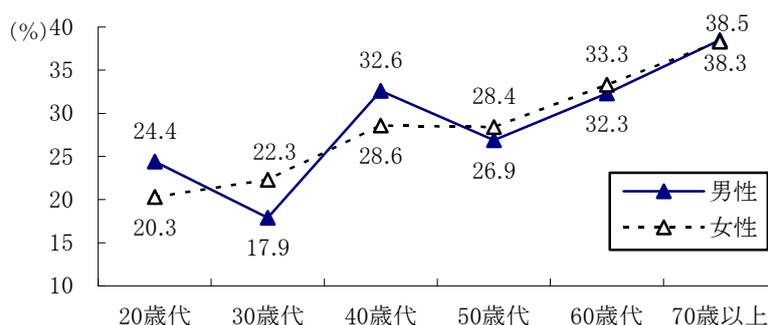


属性別
特徴

・年齢別でみると、「環境の保全を図る活動」は50歳代以上の参加が多く、「子どもの健全育成活動」は30・40歳代と70歳以上、「まちづくりの推進を図る活動」には60歳代以上、「高齢者や障害者の支援など福祉に関する活動」には70歳以上の参加が多くなっている。一方、「特にない」が30歳代77.8%、20歳代で75.2%となっており、若い世代での参加は少ない。

・ブロック別でみると、「環境の保全を図る活動」への参加は北部B北野(16.4%)で最も多い。

■ボランティア活動やNPO活動の参加経験 (性別×年齢別)



■参加したボランティア活動やNPO活動の複数回答の状況

(%)

	標本数	環境の保全を図る活動	子どもの健全育成活動	まちづくりの推進を図る活動	地域安全活動	高齢者や障害者の支援など福祉に関する活動	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動	人権擁護、平和推進、男女共同参画社会づくりに関する活動	保健、医療に関する活動	災害救援活動	社会教育の推進を図る活動	国際協力・交流活動	その他	
全体	1,796	154 8.6	145 8.1	116 6.5	114 6.3	112 6.2	92 5.1	40 2.2	37 2.1	33 1.8	27 1.5	20 1.1	21 1.2	
この1年間で参加した活動(複数回答)	環境の保全を図る活動	154	20.8	16.9	23.4	15.6	12.3	5.2	2.6	5.2	5.2	3.9	1.3	
	子どもの健全育成活動	145	22.1	—	26.2	27.6	24.1	17.9	15.2	9.0	10.3	11.0	6.9	1.4
	まちづくりの推進を図る活動	116	22.4	32.8	—	28.4	19.8	18.1	13.8	6.0	9.5	10.3	5.2	2.6
	地域安全活動	114	31.6	35.1	28.9	—	19.3	11.4	11.4	7.9	14.9	8.8	8.8	2.6
	高齢者や障害者の支援など福祉に関する活動	112	21.4	31.3	20.5	19.6	—	13.4	12.5	19.6	9.8	9.8	4.5	3.6
	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動	92	20.7	28.3	22.8	14.1	16.3	—	8.7	6.5	6.5	6.5	7.6	2.2
	人権擁護、平和推進、男女共同参画社会づくりに関する活動	40	20.0	55.0	40.0	32.5	35.0	20.0	—	10.0	17.5	20.0	12.5	5.0
	保健、医療に関する活動	37	10.8	35.1	18.9	24.3	59.5	16.2	10.8	—	27.0	13.5	8.1	5.4
	災害救援活動	33	24.2	45.5	33.3	51.5	33.3	18.2	21.2	30.3	—	12.1	9.1	6.1
	社会教育の推進を図る活動	27	29.6	59.3	44.4	37.0	40.7	22.2	29.6	18.5	14.8	—	18.5	3.7
国際協力・交流活動	20	30.0	50.0	30.0	50.0	25.0	35.0	25.0	15.0	15.0	25.0	—	5.0	
その他	21	9.5	9.5	14.3	14.3	19.0	9.5	9.5	9.5	9.5	4.8	4.8	—	

上位項目に参加した人を見ると、その他の上位項目に参加している割合が高い。

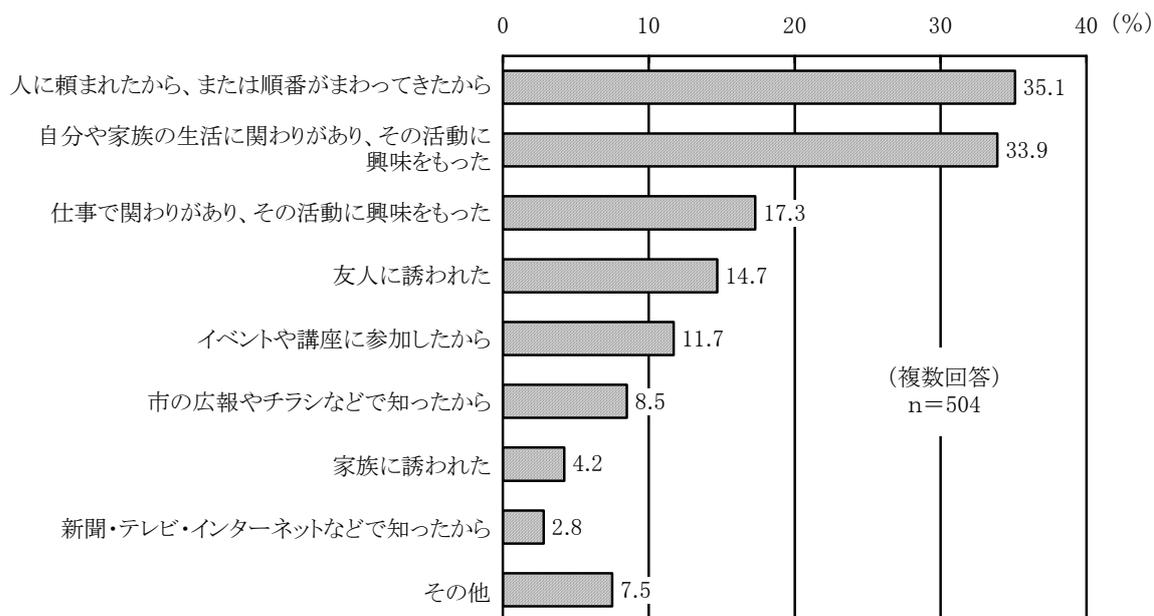
(2) 活動に参加したきっかけ

point

- 「人に頼まれたから、または順番がまわってきたから」(35.1%)、「自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった」(33.9%) というきっかけが多い。

【問 14 で「何らかの活動をした」人に】

付問 1 あなたがその活動に参加したきっかけはどのようなものですか。次の中からあてはまるものをいくつでも 選び番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

- ・性別でみると、「仕事に関わりがあり、その活動に興味をもった」「人に頼まれたから、または順番がまわってきたから」は女性より男性で高いが、「イベントや講座に参加したから」「市の広報やチラシなどで知ったから」は女性の方が高い。
- ・年齢別でみると、「仕事に関わりがあり、その活動に興味をもった」は20～40歳代と70歳以上で、「友人に誘われた」は50歳代以上で割合が高くなっている。
- ・ブロック別でみると、「人に頼まれたから、または順番がまわってきたから」は東部A(48.1%)や西部B三漕(47.6%)、北部B北野(43.9%)北部A(42.5%)で、「自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった」は南東部(46.8%)、西部A城島(45.5%)、西部B三漕(42.9%)で4割を超えて高い。また、「仕事に関わりがあり、その活動に興味をもった」は南東部(27.7%)で特に高い。

■活動に参加したきっかけ（性別、年齢別）

		標本数	順人に頼まれたから、または	自分が家族の生活に興味をもち、その活動に関わった	仕事で興味をもち、その活動に関わった	友人に誘われた	イベントや講座に参加した	市の広報やチラシなどで知ったから	家族に誘われた	新聞・テレビ・インターネットから	その他	無回答
全体		504 100.0	177 35.1	171 33.9	87 17.3	74 14.7	59 11.7	43 8.5	21 4.2	14 2.8	38 7.5	15 3.0
性別	男性	234	36.8	32.9	20.1	12.8	8.1	5.1	4.3	2.1	10.3	2.1
	女性	270	33.7	34.8	14.8	16.3	14.8	11.5	4.1	3.3	5.2	3.7
年齢別	20歳代	58	20.7	37.9	25.9	12.1	3.4	5.2	10.3	6.9	6.9	3.4
	30歳代	70	30.0	41.4	21.4	7.1	12.9	8.6	4.3	1.4	5.7	1.4
	40歳代	90	41.1	28.9	26.7	6.7	14.4	4.4	4.4	1.1	3.3	3.3
	50歳代	99	41.4	35.4	10.1	17.2	8.1	9.1	2.0	4.0	10.1	2.0
	60歳代	114	37.7	26.3	6.1	22.8	13.2	14.0	3.5	0.9	9.6	4.4
	70歳以上	73	31.5	39.7	21.9	17.8	16.4	6.8	2.7	4.1	8.2	2.7

■活動内容別にみた活動に参加したきっかけ

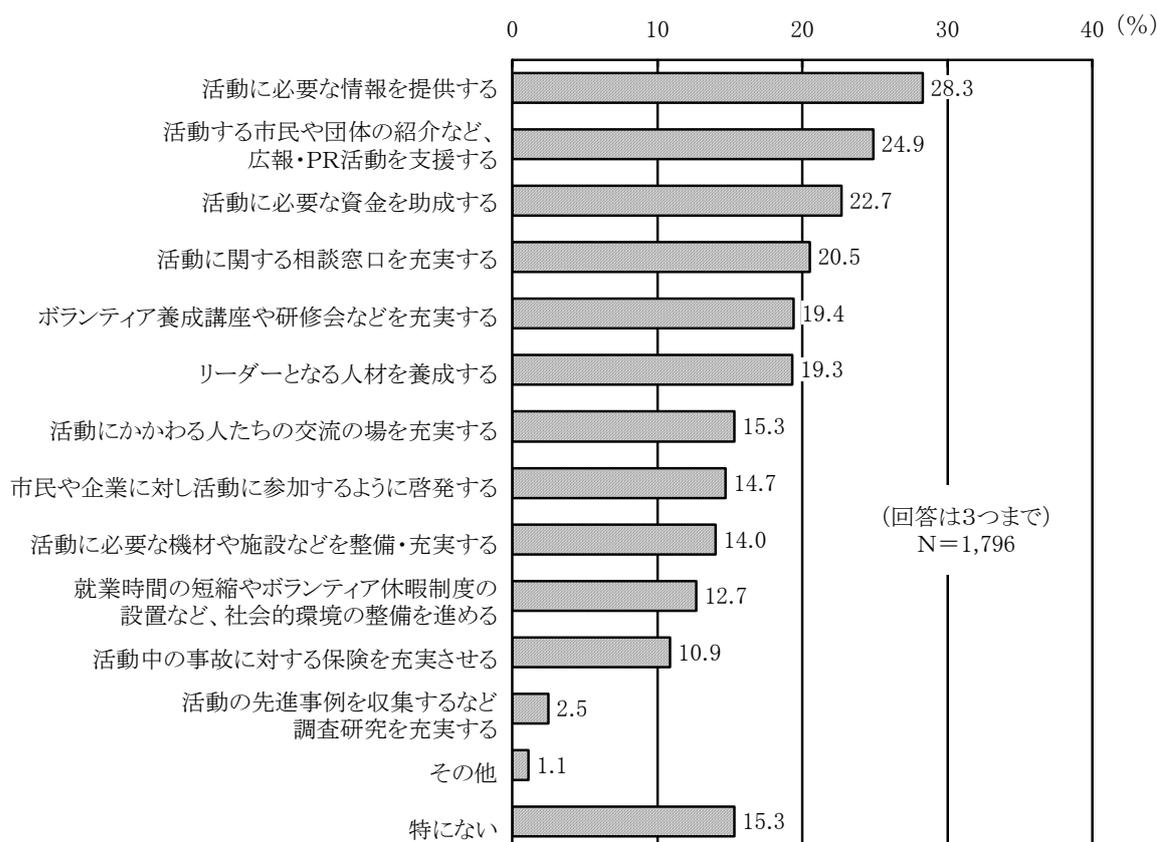
順位		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N=504)		人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 35.1	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 33.9	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 17.3	友人に誘われた 14.7	イベントや講座に参加したから 11.7
この1年間で参加した活動（上位5項目）	環境の保全を図る活動 (n=154)	人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 46.1	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 41.6	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 13.6	友人に誘われた 13.0	市の広報やチラシなどで知ったから 10.4
	子どもの健全育成活動 (n=145)	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 43.4	人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 38.6	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 22.1	友人に誘われた 16.6	イベントや講座に参加したから 16.6
	まちづくりの推進を図る活動 (n=116)	人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 43.1	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 36.2	友人に誘われた 23.3	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 21.6	イベントや講座に参加したから 17.2
	地域安全活動 (n=114)	人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 58.8	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 34.2	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 15.8	イベントや講座に参加したから 14.0	友人に誘われた 11.4
	高齢者や障害者の支援など福祉に関する活動 (n=112)	自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった 43.8	仕事で関わりがあり、その活動に興味をもった 33.0	友人に誘われた 19.6	人に頼まれたから、または順番がまわってきたから 17.9	市の広報やチラシなどで知ったから 14.3

(3) ボランティア活動やNPO活動が活発になるために行政が取り組むべきこと

point

- 「活動に必要な情報提供」、「広報・PR支援」が求められている。
- この1年間で何らかの活動をした『参加経験あり』の人では、「活動に必要な資金の助成」や「リーダーとなる人材の養成」がより求められている。

問15 今後、ボランティア活動やNPO活動が一層活発になるためには、行政はどのようなことを重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から 3つまで 選び、番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

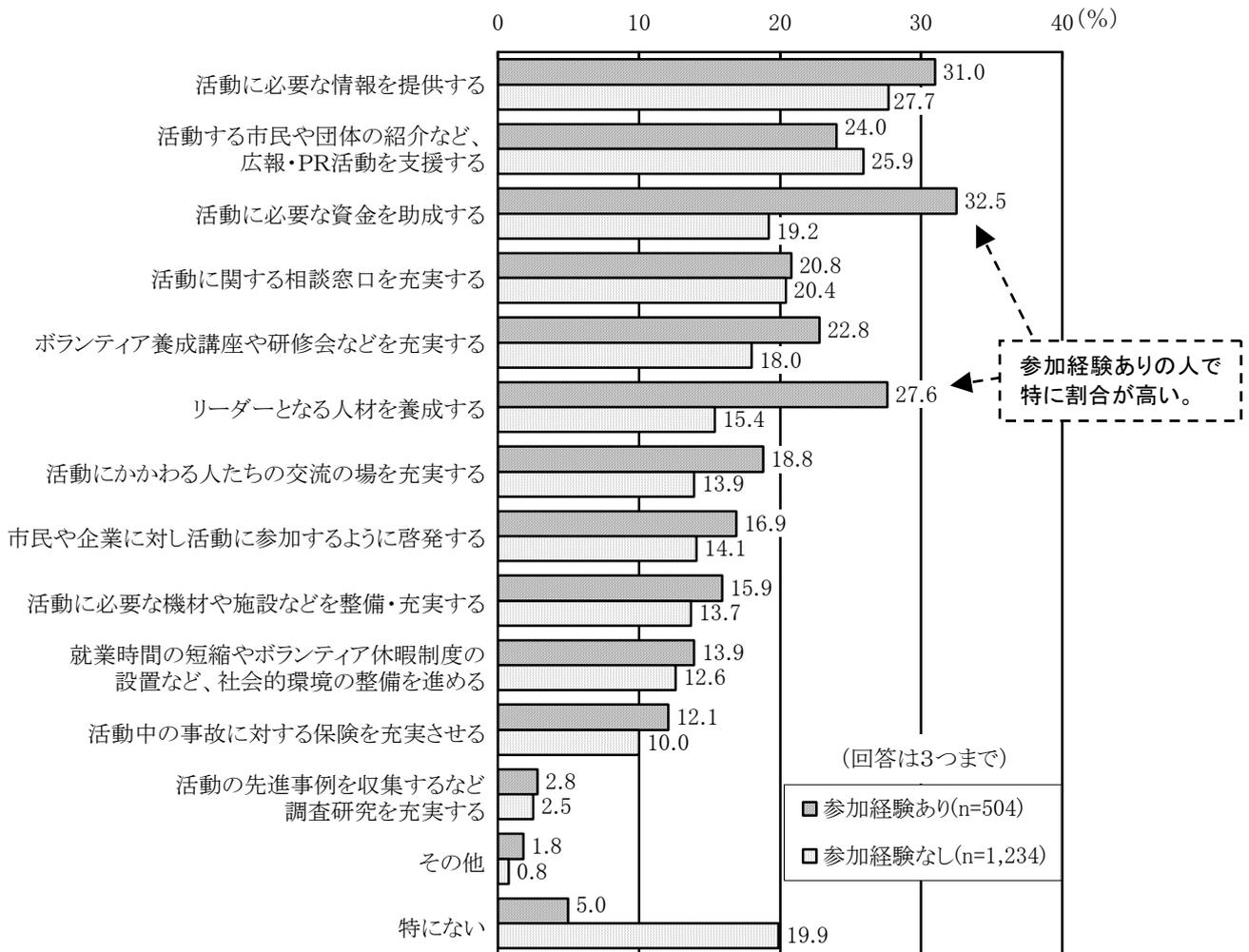
- ・性別で見ると、「活動に必要な機材や施設などを整備・充実する」「就業時間の短縮やボランティア休暇制度の設置など、社会的環境の整備を進める」取り組みは、女性より男性の方に、「ボランティア養成講座や研修会などを充実する」「活動する市民や団体の紹介など、広報・PR活動を支援する」取り組みは女性の方に、より多く求められている。
- ・年齢別で見ると、70歳以上では「活動する市民や団体の紹介など、広報・PR活動を支援する」取り組みは13.7%と低く、「活動に関する相談窓口を充実する」は32.1%と特に高くなっている。「活動中の事故に対する保険を充実させる」取り組みは、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向にある。一方、「就業時間の短縮やボランティア休暇制度の設置など、社会的環境の整備を進める」取り組みは若い世代で高く、20歳代では19.1%となっている。
- ・ブロック別にみると、「活動に必要な情報を提供する」は中央東部(35.7%)で、「リーダーとなる人材を養成する」は東部A(25.2%)で、「活動にかかわる人たちの交流の場を充実する」「活動中の事故に対する保険を充実させる」は西部A城島(27.0%、18.9%)で、他のブロックより高くなっている。

■ ボランティア活動やNPO活動が活発になるために行政が取り組むべきこと（年齢別）

(%)

	標本数	活動に必要な情報を提供する	PR活動する市民や団体の紹介など、広報・	活動に必要な資金を助成する	活動に関する相談窓口を充実する	ボランティア養成講座や研修会などを充実する	リーダーとなる人材を養成する	活動にかかわる人たちの交流の場を充実する	市民や企業に対し活動に参加するように啓発する	活動に必要な機材や施設などを整備・充実する	就業時間の短縮やボランティア休暇制度の設置など、社会的環境の整備を進める	活動中の事故に対する保険を充実させる	活動の先進事例を収集するなど調査研究を充実する	その他	特にない	無回答	
全体	1,796 100.0	508 28.3	448 24.9	407 22.7	369 20.5	348 19.4	347 19.3	275 15.3	264 14.7	252 14.0	228 12.7	196 10.9	45 2.5	20 1.1	275 15.3	66 3.7	
年齢別	20歳代	262	26.0	26.7	24.4	17.2	13.7	18.3	21.8	18.7	16.8	19.1	9.5	1.1	0.8	14.5	1.5
	30歳代	342	33.3	28.4	17.8	17.0	18.4	15.5	16.7	16.4	14.0	14.9	6.1	3.5	0.9	15.8	2.9
	40歳代	297	29.0	25.9	26.6	18.9	18.9	19.2	13.8	13.8	18.9	16.2	10.1	3.0	1.7	12.1	3.4
	50歳代	358	28.2	27.4	22.3	21.8	22.6	20.7	12.6	12.6	13.4	14.5	11.7	3.1	1.7	12.3	2.8
	60歳代	347	26.5	23.1	22.2	20.5	20.7	19.3	13.3	15.3	9.2	5.5	13.8	2.0	0.9	18.7	6.6
	70歳以上	190	24.7	13.7	24.2	32.1	21.1	25.3	15.3	10.5	12.6	4.2	15.8	1.6	0.5	20.0	4.7

■ ボランティア活動やNPO活動が活発になるために行政が取り組むべきこと（活動経験の有無別）



4-2 市民による活動（ボランティア・NPO・自治会活動等）への参加状況

◆市民による活動へ月1回以上参加する人は約8人に1人。うち8割以上が参加してよかったと答えている。

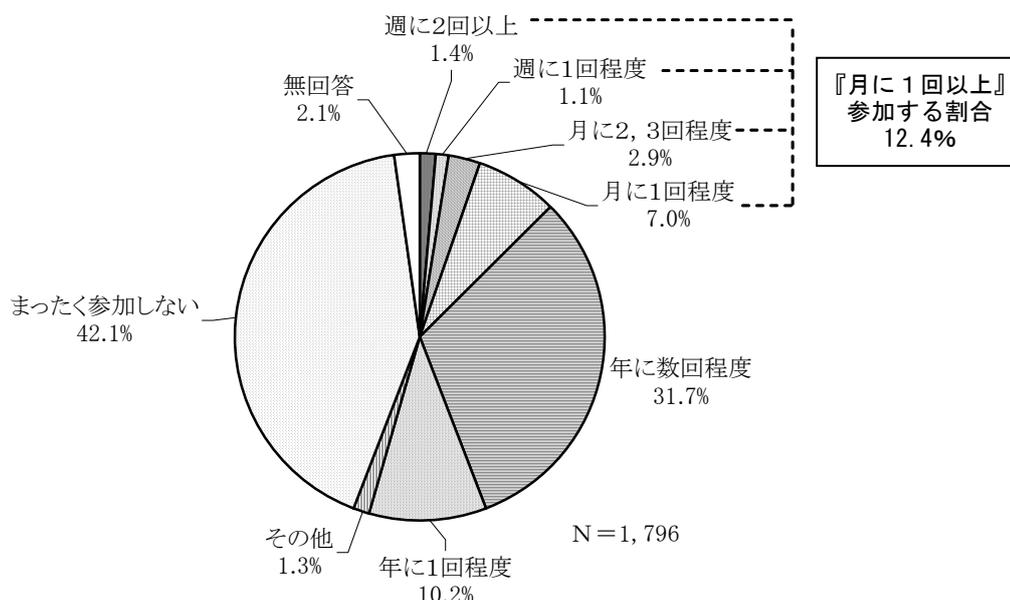
(1) 市民による活動（ボランティア・NPO・自治会活動等）の参加経験

point

●月に1回以上活動している人は約8人に1人。

◎ここからは「ボランティア活動」や「NPO活動」に加えて、自治会活動など「地域で行われる活動」（運動会、清掃活動など）も含めてお答えください。

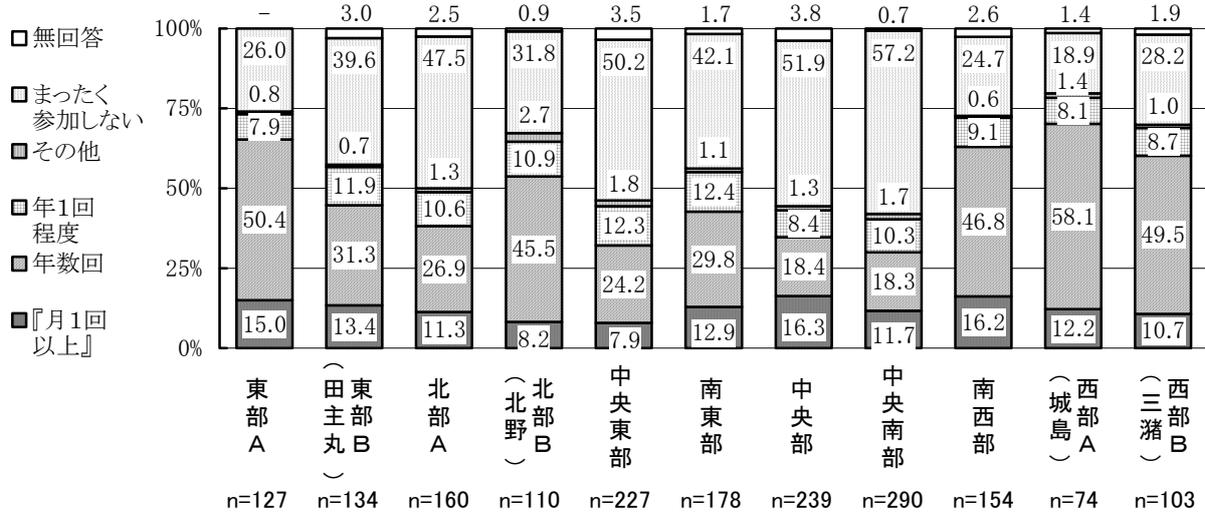
問16 あなたは、こうした活動にどの程度参加していますか。（あてはまる番号に1つだけ○印）



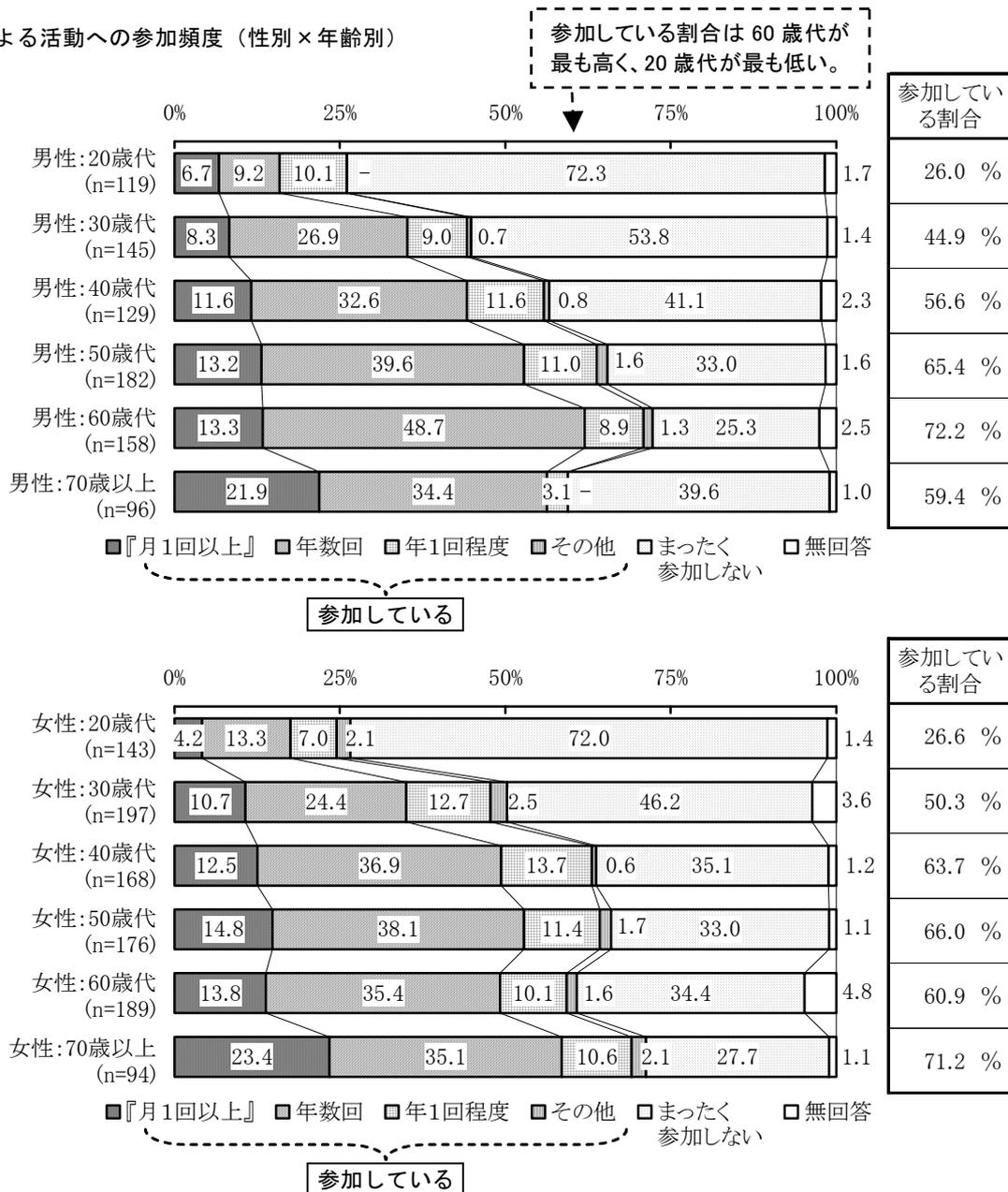
属性別特徴

- ・性別で見ると、「月に1回程度」「年に1回程度」では女性の割合が、「年に数回程度」では男性の割合が高いが、『参加している』割合は性別での違いはほとんどみられない。
- ・年齢別で見ると、活動に『参加している』人は20歳代では26.3%と特に低く、年齢が上がると『参加している』割合も高くなり、50歳代以上では約65%となっている。また、70歳以上では『月に1回以上』が22.7%と、参加の頻度も多い。
- ・ブロック別に見ると、『参加している』割合は西部A城島(79.8%)をはじめとして、東部A(74.1%)や南西部(72.7%)、西部B三瀬(69.9%)、北部B北野(67.3%)で高く、特に『月に1回以上』参加している割合は、中央部(16.3%)や南西部(16.2%)で高い。一方、「まったく参加しない」は中央南部(57.2%)、中央部(51.9%)、中央東部(50.2%)で5割を超えている。

■市民による活動への参加頻度（ブロック別）



■市民による活動への参加頻度（性別×年齢別）



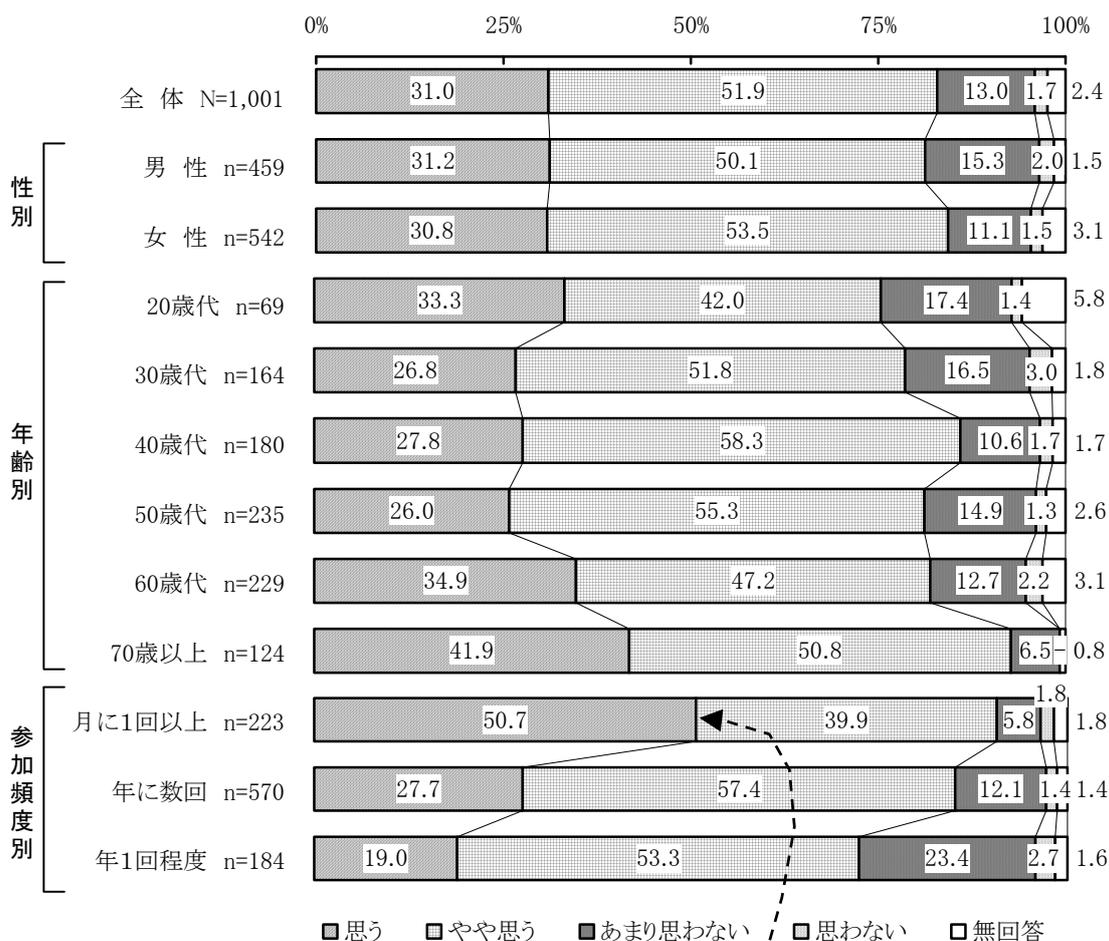
(2) 活動へ参加したときの満足度

point

- 「思う」(31.0%)と「やや思う」(51.9%)をあわせて、82.9%が参加してよかった、役に立ったと『思う』と答えている。
- 『月に1回以上』活動に参加している人では特に高く90.6%が『思う』としている。

【問16で「参加している」人に】

付問1 こうした活動に参加して、よかった、役に立ったと思いますか。
(あてはまる番号に1つだけ○印)



月に1回以上参加する人では5割が「思う」と答え、「やや思う」とあわせて90.6%が『思う』と答えている。

属性別特徴

- ・性別で見ると、男性(81.3%)より女性(84.3%)の方が満足度はやや高い。
- ・年齢別で見ると、「思う」割合は70歳以上で41.9%、「やや思う」と合わせると満足度は92.7%と最も高く、次いで40歳代86.1%となっている。また、満足度は20歳代(75.3%)で最も低い。
- ・ブロック別にみると、「思う」割合は北部Aで43.8%と特に高い。また、『思う』割合は中央部(87.7%)や東部B田主丸(87.0%)、北部A(86.3%)で高くなっている。一方、『思わない』割合は南東部(21.0%)、北部B北野(20.3%)で約2割と高い。

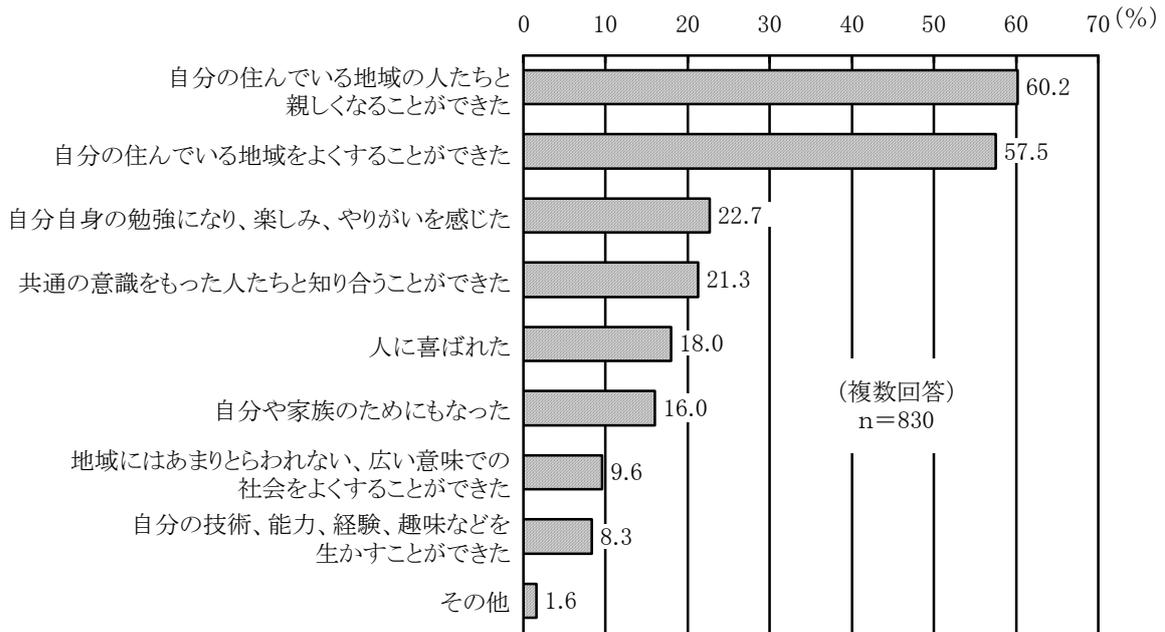
(3) 活動へ参加して「よかった、役に立った」こと

point

- 「地域の人たちと親しくなることができた」(60.2%)、「地域をよくすることができた」(57.5%) が 6 割前後で特に多くなっている。

【付問 1 で「思う」「やや思う」に回答した人に】

付問 2 こうした活動に参加して「よかった、役に立った」と思ったのは、具体的にどのようなことですか。次の中からあてはまるものを いくつでも 選び○印をつけてください。



属性別特徴

- ・性別で見ると、「自分の住んでいる地域をよくすることができた」(男性: 63.3%、女性: 52.7%)、「共通の意識をもった人たちと知り合うことができた」(男性: 25.2%、女性: 18.2%)、「人に喜ばれた」(男性: 21.4%、女性: 15.1%)などの項目で女性より男性の割合が高くなっている。
- ・年齢別で見ると、「自分の住んでいる地域をよくすることができた」は 20 歳代で 40.4%と最も低く、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向にあり、70 歳以上では 73.0%と最も高い。20 歳代では「自分自身の勉強になり、楽しみ、やりがいを感じた」「人に喜ばれた」はともに 36.5%と高く、「自分の住んでいる地域の人たちと親しくなることができた」では 28.8%と低い。「自分や家族のためにもなった」は 30 歳代で 40.3%と高い。
- ・ブロック別にみると、「自分の住んでいる地域の人たちと親しくなることができた」は東部 A (69.1%)と西部 B 三瀨 (69.0%)で高く、中央東部 (50.6%)では低い。「自分自身の勉強になり、楽しみ、やりがいを感じた」は南東部 (31.6%)や中央部 (30.1%)、中央南部 (29.1%)で約 3 割と高い。また、「人に喜ばれた」は北部 B 北野で 28.1%と高い。

■活動へ参加して「よかった、役に立った」こと（性別、年齢別、参加頻度別）

(%)

		標本数	ち自分の親しくなる地域の人	自分の住んでいる地域をよく	自分自身の勉強になり、楽しみ	共通の意識をもった人たちと知り合うことができた	人に喜ばれた	自分や家族のためにもなった	すい、地域にはあまりとらわれなく、広い意味での社会をよく	自分の技術、能力、経験、趣味などを生かすことができた	その他	無回答
全体		830 100.0	500 60.2	477 57.5	188 22.7	177 21.3	149 18.0	133 16.0	80 9.6	69 8.3	13 1.6	1 0.1
性別	男性	373	59.5	63.3	22.0	25.2	21.4	16.6	10.2	9.7	1.3	-
	女性	457	60.8	52.7	23.2	18.2	15.1	15.5	9.2	7.2	1.8	0.2
年齢別	20歳代	52	28.8	40.4	36.5	25.0	36.5	23.1	15.4	15.4	-	-
	30歳代	129	64.3	42.6	24.0	19.4	16.3	40.3	7.8	5.4	2.3	-
	40歳代	155	69.0	52.9	24.5	21.3	15.5	16.1	5.8	9.0	1.3	0.6
	50歳代	191	57.1	62.3	14.7	18.3	13.1	8.4	12.0	5.2	1.6	-
	60歳代	188	60.6	61.7	21.8	18.1	16.0	6.9	10.6	7.4	2.1	-
	70歳以上	115	62.6	73.0	27.0	32.2	26.1	13.0	8.7	13.9	0.9	-
参加頻度別	月1回以上	202	63.4	54.5	43.1	38.6	25.2	20.3	14.4	18.3	2.5	-
	年数回	485	62.3	60.8	16.1	17.3	16.9	14.8	7.8	4.9	1.2	-
	年1回程度	133	49.6	51.1	15.8	9.8	11.3	12.8	8.3	6.0	-	0.8
	その他 無回答	10 -	40.0 -	40.0 -	20.0 -	20.0 -	20.0 -	10.0 -	30.0 -	20.0 -	- -	20.0 -

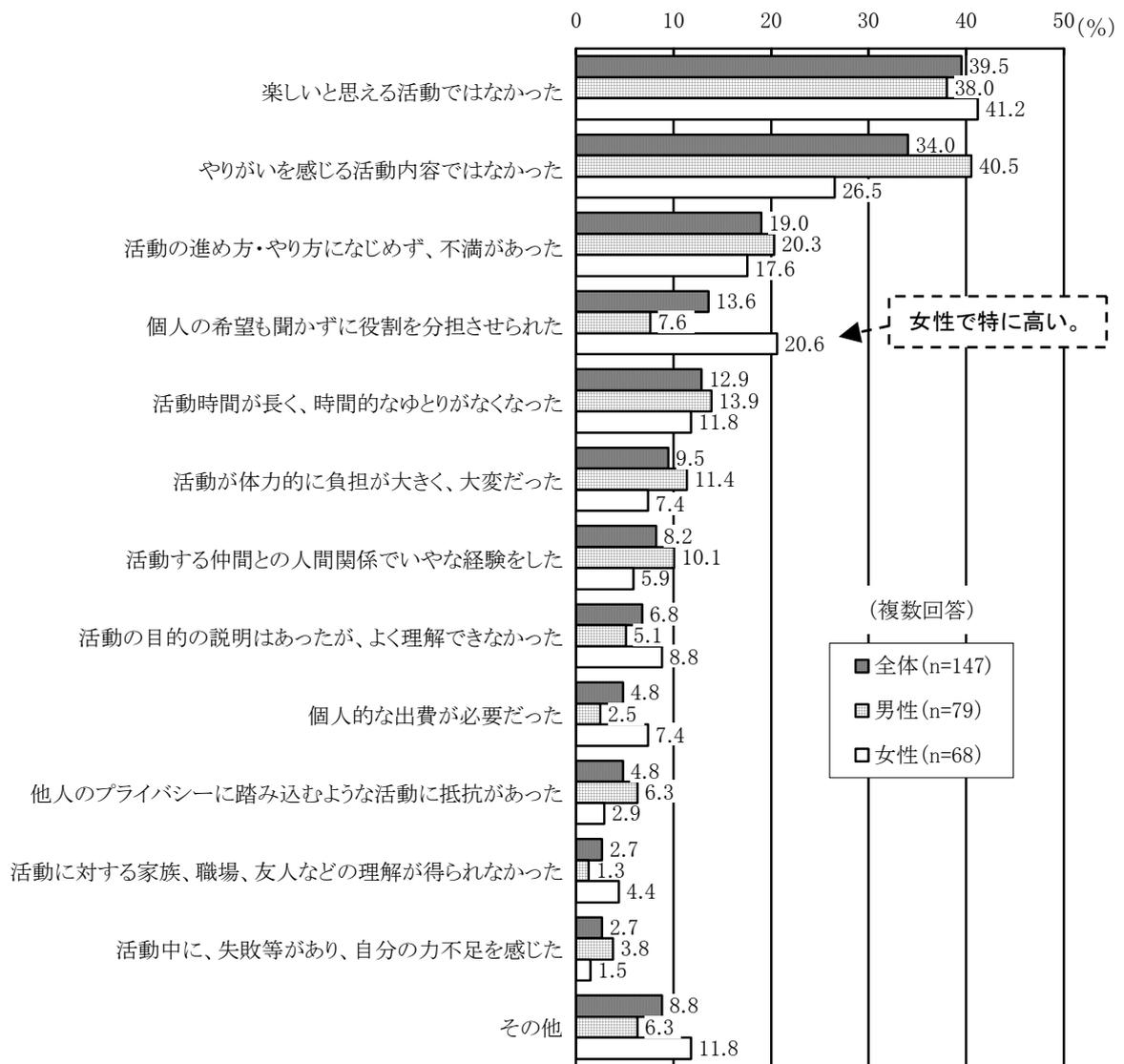
(4) 活動について「よかった、役に立ったと思わない」理由

point

- 「楽しいと思える活動ではなかった」(39.5%)、「やりがいを感じる活動内容ではなかった」(34.0%) が特に高くなっている。
- 男性に比べて女性では「個人の希望も聞かずに役割を分担させられた」が高い。

【付問 1 で「あまり思わない」「思わない」に回答した人に】

付問 3 あなたはどのような理由で、活動について「よかった、役に立ったと思わない」とお感じになりましたか。次の中から主なものをいくつか選べば○印をつけてください。



属性別
特徴

・性別でみると、「やりがいを感じる活動内容ではなかった」(男性:40.5%、女性:26.5%)や「活動する仲間との人間関係でいやな経験をした」「活動が体力的に負担が大きく、大変だった」などの理由をあげる人は女性より男性の方が多い。一方、「個人の希望も聞かずに役割を分担させられた」(女性:20.6%、男性:7.6%)などは女性の方が多い。

4-3 市民による活動に対する意識

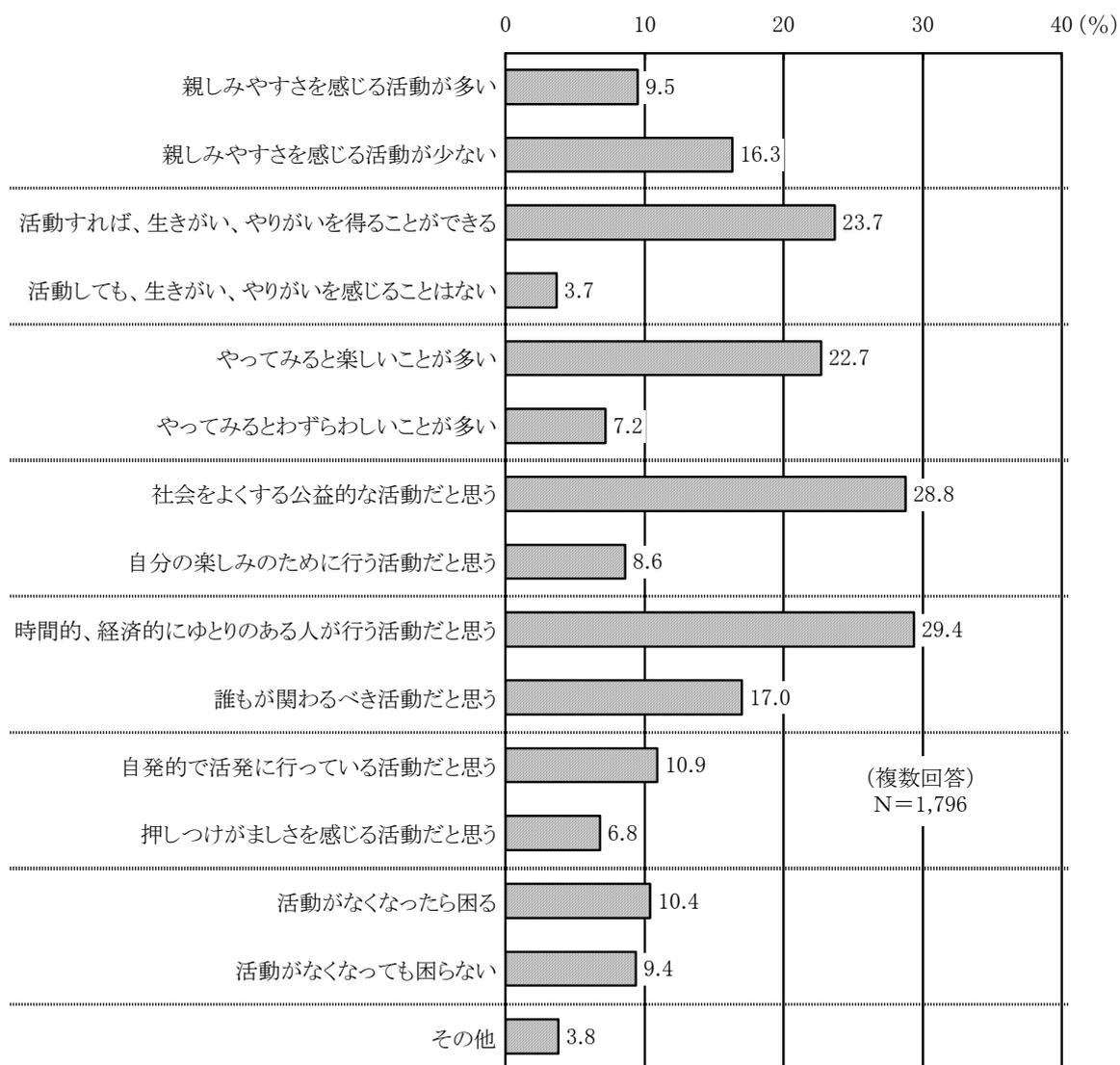
◆約3人に2人が、今後「機会があれば参加してもいい」。

(1) 市民による活動の印象

point

- 「時間的、経済的にゆとりのある人が行う活動だと思う」(29.4%)、「社会をよくする公益的な活動だと思う」(28.8%)が上位にあがっている。

問 17 市民による活動について、あなたはどのような印象をお持ちですか。次の中からあてはまるものをいくつでも 選び、番号に○印をつけてください。



属性別 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・性別でみると、「自発的で活発に行っている活動だと思う」「誰もが関わるべき活動だと思う」「社会をよくする公益的な活動だと思う」などでは女性より男性の割合が高く、「やってみると楽しいことが多い」や「活動すれば、生きがい、やりがいを得ることができる」では男性より女性の割合が高い。 ・年齢別でみると、「時間的、経済的にゆとりのある人が行う活動だと思う」人は 20～50 歳代では3割強となっているが、60 歳代では 22.8%、70 歳以上では 17.9%と低い。「活動すれば、生きがい、やりがいを得ることができる」と「親しみやすさを感じる活動が多い」では年齢が上がるほど割合も高くなる傾向がみられる。「親しみやすさを感じる活動が少ない」は 20 歳代 (25.6%) で、「誰もが関わるべき活動だと思う」は 70 歳以上 (24.7%) で高くなっている。 ・ブロック別でみると、「やってみると楽しいことが多い」は西部A城島 (31.1%) と西部B三瀬 (29.1%) で約3割と高く、東部B田主丸では 14.2%と最も低くなっている。
-----------	--

■市民による活動の印象（性別×年齢別、参加頻度別）

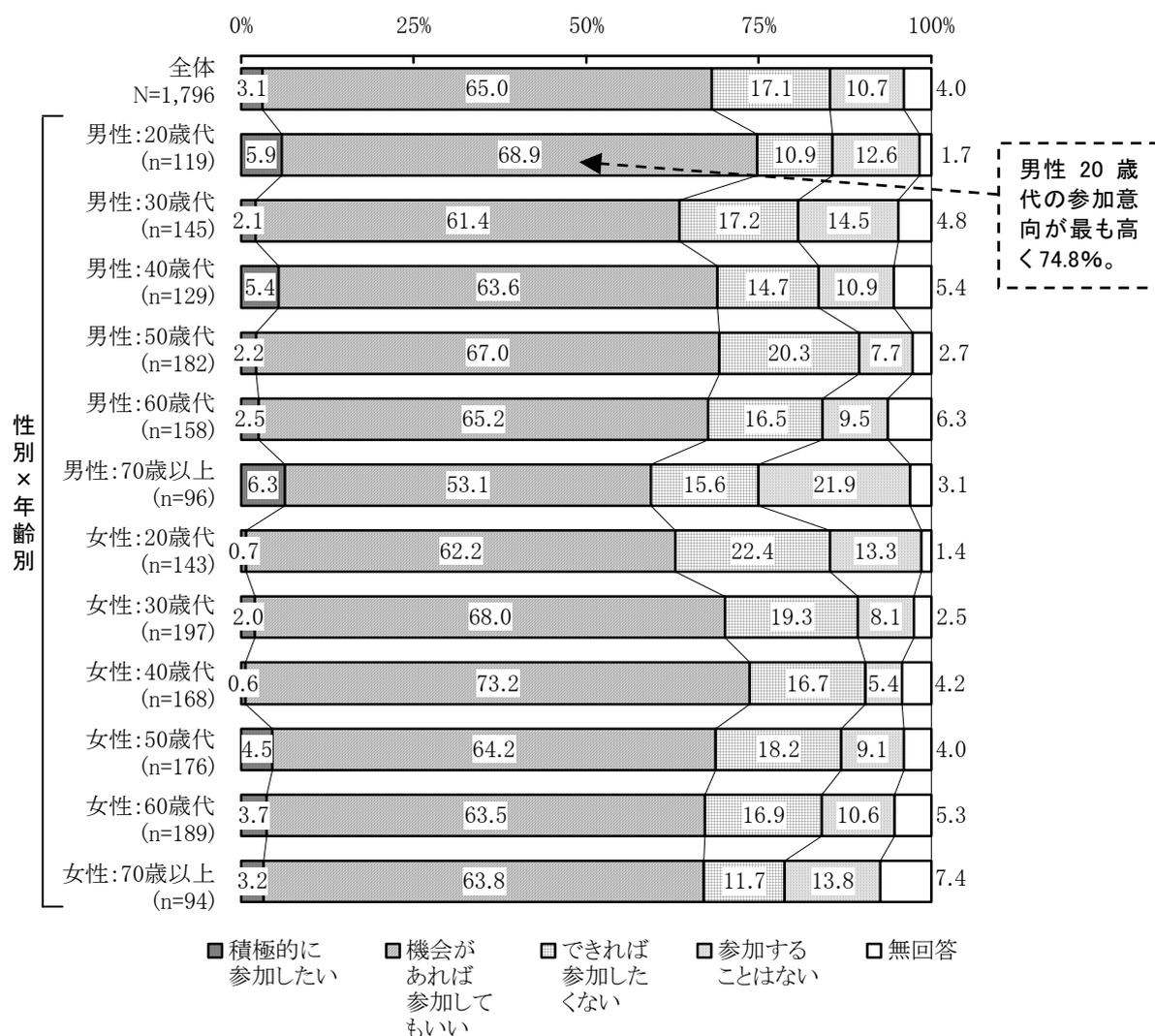
		標本数	親しみやすさを感じる活動が多い	親しみやすさを感じる活動が少ない	活動すれば、生きがい、やりがいを得ることができる	活動しても、生きがい、やりがいを感じることはない	やってみると楽しいことが多い	やってみるとわずらわしいことが多い	社会をよくする公益的な活動だと思う	自分の楽しみのために行う活動だと思う	時間的、経済的にゆとりのある人が行う活動だと思う	誰もが関わるべき活動だと思う	自発的で活発に行っている活動だと思う	押しつけがましきを感じる活動だと思う	活動がなくなったら困る	活動がなくなっても困らない	その他	無回答
全体		1,796 100.0	171 9.5	292 16.3	426 23.7	67 3.7	407 22.7	129 7.2	517 28.8	154 8.6	528 29.4	305 17.0	195 10.9	122 6.8	186 10.4	168 9.4	68 3.8	115 6.4
性別× 年齢別	男性:20歳代	119	5.9	25.2	16.8	4.2	27.7	5.0	26.1	5.9	26.1	16.0	14.3	5.9	11.8	11.8	5.0	3.4
	男性:30歳代	145	6.2	23.4	15.2	2.8	13.1	9.7	25.5	7.6	34.5	17.2	12.4	5.5	11.0	12.4	3.4	4.8
	男性:40歳代	129	9.3	17.8	20.9	5.4	22.5	5.4	38.0	7.0	31.8	19.4	10.1	9.3	10.1	10.1	2.3	5.4
	男性:50歳代	182	10.4	11.5	22.5	4.4	16.5	9.9	29.1	10.4	36.8	21.4	12.1	9.3	7.7	11.5	3.3	3.8
	男性:60歳代	158	12.0	12.7	24.7	5.7	18.4	8.2	32.3	9.5	24.1	16.5	10.8	10.8	10.1	8.9	4.4	10.1
	男性:70歳以上	96	25.0	18.8	32.3	10.4	27.1	9.4	34.4	8.3	17.7	25.0	22.9	10.4	12.5	6.3	2.1	11.5
	女性:20歳代	143	8.4	25.9	23.1	2.8	23.1	11.2	28.0	7.0	39.9	13.3	11.9	7.0	11.9	5.6	6.3	4.2
	女性:30歳代	197	7.6	15.2	24.4	2.5	24.9	5.1	27.4	8.1	33.0	11.7	9.6	6.6	10.2	12.7	4.6	6.1
	女性:40歳代	168	7.1	13.7	23.2	2.4	29.8	3.0	26.8	8.9	33.3	13.1	7.7	3.6	10.1	7.1	1.8	3.6
	女性:50歳代	176	6.3	14.8	21.0	2.8	22.2	9.1	28.4	9.1	27.3	16.5	8.0	6.8	10.2	8.5	3.4	5.7
女性:60歳代	189	10.1	8.5	29.1	2.6	23.3	3.7	25.9	8.5	21.7	16.4	6.9	4.2	9.0	8.5	4.8	11.1	
女性:70歳以上	94	12.8	14.9	36.2	1.1	27.7	8.5	26.6	12.8	18.1	24.5	10.6	2.1	12.8	6.4	3.2	8.5	
参加 頻度別	月1回以上	223	17.0	12.1	47.5	3.6	43.0	9.4	34.5	9.0	19.3	31.4	17.9	9.0	11.7	6.7	1.8	0.9
	年数回	570	12.1	17.4	25.1	4.4	28.1	8.4	30.2	6.3	28.8	23.2	8.2	9.1	12.1	6.3	2.5	3.9
	年1回程度	184	9.2	14.1	19.0	6.0	21.2	7.1	27.2	7.6	31.0	14.1	7.1	4.9	4.3	10.3	3.3	6.5
	その他	24	8.3	4.2	20.8	-	20.8	12.5	16.7	4.2	25.0	20.8	-	4.2	12.5	4.2	16.7	8.3
	まったく参加しない	757	5.7	17.7	17.4	3.0	13.7	5.7	27.3	10.7	32.6	9.2	12.2	5.3	10.4	12.4	4.8	8.2
無回答	38	5.3	13.2	13.2	-	7.9	2.6	18.4	5.3	28.9	5.3	7.9	-	2.6	7.9	10.5	39.5	

(2) 市民による活動への参加意向

point

- 「機会があれば参加してもいい」が約3人に2人。
- 20歳代男性や40歳代女性で参加意向（「積極的に参加したい」＋「機会があれば参加してもいい」）が高くなっている。

問18 あなたは今後、市民による活動について、どのように関わっていきたいと思いますか。（あてはまる番号に1つだけ○印）市民による活動について、あなたはどのような印象をお持ちですか。



属性別特徴

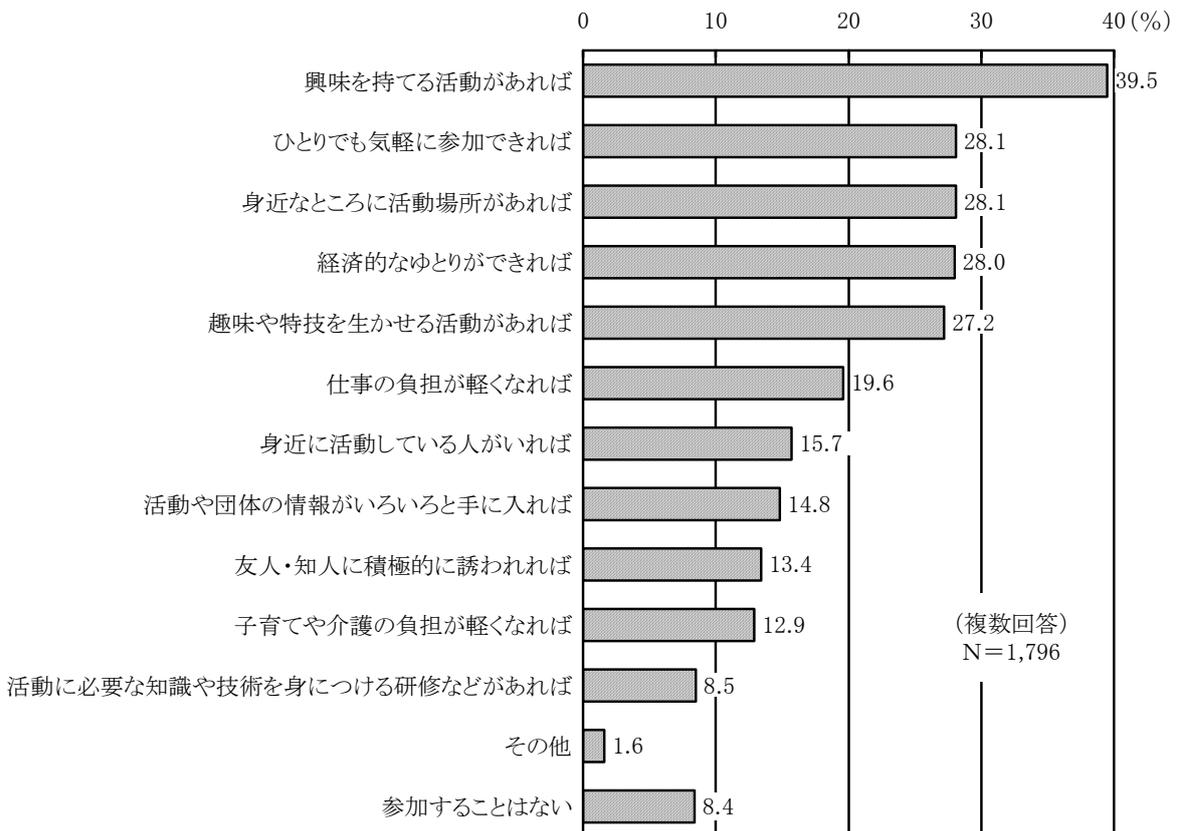
- ・性別で見ると、ほとんど違いはみられないが、「参加することはない」の割合が女性(9.6%)より男性(12.1%)でやや高い。
- ・年齢別で見ると、「機会があれば参加してもいい」は40歳代(69.0%)で最も高く、「積極的に参加したい」人を合わせると7割を超える。一方、「参加することはない」は70歳以上で17.9%と高く、「できれば参加したくない」人を合わせると約3割となっている。
- ・ブロック別で見ると、「積極的に参加したい」と「機会があれば参加してもいい」を合わせた『参加意向がある』人の割合は、西部A城島(78.4%)で最も高く、南東部(60.7%)で低い。

(3) 市民による活動を活発にするには

point

● 「興味をもてる活動があれば」が約 4 割で最も多い。

問 19 どのようなことがあれば、あなたはこうした活動にもっと活発に参加できると思いますか。次の中からあてはまるものを いくつでも 選び、番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

- ・男性・女性ともに第1位は「興味を持てる活動があれば」で、男性は「趣味や特技を生かせる活動があれば」「経済的なゆとりができれば」、女性は「身近なところに活動場所があれば」「ひとりでも気軽に参加できれば」と続いている。
- ・性別で見ると、「趣味や特技を生かせる活動があれば」「仕事の負担が軽くなれば」は女性より男性の割合が高く、「子育てや介護の負担が軽くなれば」は女性の割合が高い。
- ・年齢別で見ると、「興味を持てる活動があれば」は40歳代(47.5%)で高く、70歳以上(29.5%)で低い。「子育てや介護の負担が軽くなれば」は30歳代(33.6%)で高く、「身近に活動している人がいれば」「友人知人に積極的に誘われれば」は20歳代(24.4%、24.0%)で高い。また、「趣味や特技を生かせる活動があれば」は50歳代で20.1%と低くなっている。
- ・ブロック別にみると、「子育てや介護の負担が軽くなれば」は中央東部(19.8%)、「経済的なゆとりができれば」は東部A(37.8%)で最も高くなっている。また、「ひとりでも気軽に参加できれば」は西部A城島(14.9%)では特に低い。

■市民による活動を活発にするには（性別×年齢別）【上位5位】

男性 30～50 歳代では「仕事の負担が軽くなれば」という割合が高い。

(%)

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
全体 (N=1,796)	興味を持てる活動があれば 39.5	ひとりでも気軽に参加できれば 身近なところに活動場所があれば 28.1		経済的なゆとりができれば 28.0	趣味や特技を生かせる活動があれば 27.2	
性別×年齢別	男性:20歳代 (n=119)	興味を持てる活動があれば 42.0	趣味や特技を生かせる活動があれば 36.1	ひとりでも気軽に参加できれば 35.3	経済的なゆとりができれば ▼ 25.2	誘われれば/身近なところに活動場所があれば 23.5
	男性:30歳代 (n=145)	興味を持てる活動があれば 43.4	経済的なゆとりができれば 35.2	趣味や特技を生かせる活動があれば 33.1	仕事の負担が軽くなれば 30.3	ひとりでも気軽に参加できれば 26.2
	男性:40歳代 (n=129)	興味を持てる活動があれば 47.3	趣味や特技を生かせる活動があれば 39.5	経済的なゆとりができれば 31.8	仕事の負担が軽くなれば 30.2	身近なところに活動場所があれば 25.6
	男性:50歳代 (n=182)	興味を持てる活動があれば 経済的なゆとりができれば 34.1		仕事の負担が軽くなれば 29.7	身近なところに活動場所があれば 28.6	ひとりでも気軽に参加できれば 26.4
	男性:60歳代 (n=158)	興味を持てる活動があれば 38.6	趣味や特技を生かせる活動があれば 32.3	身近なところに活動場所があれば 30.4	ひとりでも気軽に参加できれば 28.5	経済的なゆとりができれば 25.9
	男性:70歳以上 (n=96)	趣味や特技を生かせる活動があれば 身近なところに活動場所があれば 32.3		ひとりでも気軽に参加できれば 興味を持てる活動があれば 29.2		経済的なゆとりができれば 17.7
	女性:20歳代 (n=143)	興味を持てる活動があれば 46.9	経済的なゆとりができれば 35.7	趣味や特技を生かせる活動があれば 29.4	身近なところに活動場所があれば 28.7	身近に活動している人がいれば 26.6
	女性:30歳代 (n=197)	子育てや介護の負担が軽くなれば 46.2	興味を持てる活動があれば 41.6	経済的なゆとりができれば 29.4	ひとりでも気軽に参加できれば 27.9	身近なところに活動場所があれば 27.4
	女性:40歳代 (n=168)	興味を持てる活動があれば 47.6	経済的なゆとりができれば 31.0	身近なところに活動場所があれば 27.4	ひとりでも気軽に参加できれば 25.0	趣味や特技を生かせる活動があれば 23.8
	女性:50歳代 (n=176)	興味を持てる活動があれば 39.2	ひとりでも気軽に参加できれば 30.7	身近なところに活動場所があれば 27.8	経済的なゆとりができれば 26.1	仕事の負担が軽くなれば 21.0
女性:60歳代 (n=189)	興味を持てる活動があれば 31.2	身近なところに活動場所があれば 29.1	ひとりでも気軽に参加できれば 28.6	趣味や特技を生かせる活動があれば 22.8	経済的なゆとりができれば 21.2	
女性:70歳以上 (n=94)	身近なところに活動場所があれば 39.4	ひとりでも気軽に参加できれば 36.2	興味を持てる活動があれば 29.8	趣味や特技を生かせる活動があれば 24.5	友人・知人に積極的に誘われれば 17.0	

女性 30 歳代では「子育てや介護の負担が軽くなれば」がトップ。

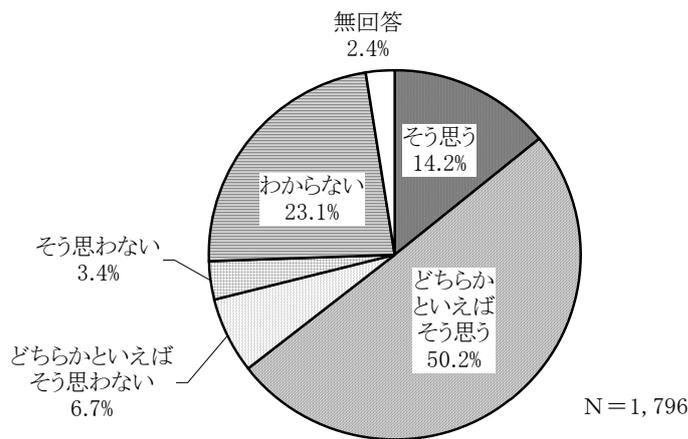
(4) 地域の問題に対する取り組み方

point

- 「そう思う」(14.2%) と 「どちらかといえばそう思う」(50.2%) あわせて 64.4% が 『そう思う』 としている。
- 一方、「わからない」が 23.1% と 4 分の 1 近くある。

問 20 地域の問題に対しては、行政だけでなく、市民や地域団体などが協働・役割分担して、それぞれ主体的に取り組むべきだという意見があります。

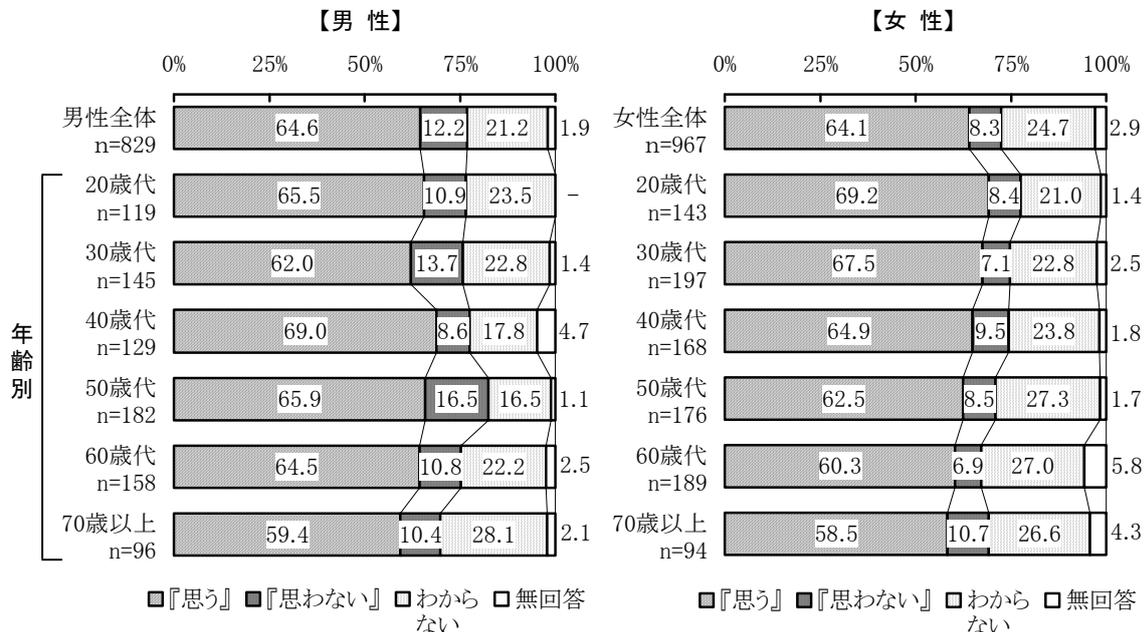
あなたはこの意見についてどう思いますか。(あてはまる番号に 1 つだけ○印)



属性別特徴

- ・性別でみると、『思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)割合では違いはみられないが、「そう思う」割合は女性(12.2%)より男性(16.5%)の方が高い。また、『思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)も女性(8.3%)より男性(12.2%)の方が高くなっている。
- ・年齢別でみると、「そう思う」は 20 歳代(18.3%)と 70 歳以上(17.4%)で高いが、70 歳以上では『思う』割合は最も低く 59.0%となっている。
- ・ブロック別でみると、『思う』割合は中央部(69.8%)、北部A(69.4%)などで比較的高い。

■ 地域の問題に対する取り組み方 (性別×年齢別)





—— 市民活動について ——

■ ボランティア活動やNPO活動のすそ野が拡大

ボランティア活動やNPO活動として、この1年間に参加した分野からみてみよう。なお、活動項目（選択肢）は、平成10年に施行された「特定非営利活動促進法」第2条に定められた12の活動分野に基づいて作成されており、その中では「環境の保全を図る活動」、「子どもの健全育成活動」が比較的高い活動率をみている。何らかの活動をした人は、市民全体の28.1%を占めている。「特にない」は、68.7%である。

平成12年の市民意識調査では、ボランティア活動、市民活動への参加状況を尋ねている。その結果では「現在活動している」が8.4%、「活動したことはあるが、現在は活動していない」が15.8%、「活動したことは1度もない」が75.5%となっている。「この1年間」と「現在」と質問形式は異なるものの、この10年で活動率は3倍まで増加したものと考えられ、こうした活動のすそ野が広がってきたことがわかる。

しかし、今回の調査における、ボランティア活動の特徴は、同じ人が複数の活動項目に参加していることがあげられる。特に、上位2項目に加えて「まちづくりの推進を図る活動」、「地域安全活動」の4項目はその傾向が強く、すそ野は広がっているものの、依然として活動している人材が固定化している様子が見えてくる。

一方、「特にない」と答えた人のプロフィールをみると、性別・年齢別では70歳以上で低い。換言すると、久留米市のボランティア活動、市民活動は70歳以上の高齢者によって支えられていることがわかる。また、居住形態別では、「借家住宅・一戸建て」や「賃貸住宅・アパート、マンション」で高い。近所づきあいの程度別でみると、近所づきあいが多いほど「特にない」の割合が低く、近所づきあいの濃密さとボランティア等の活動性が密接に結びついていることが明らかである。

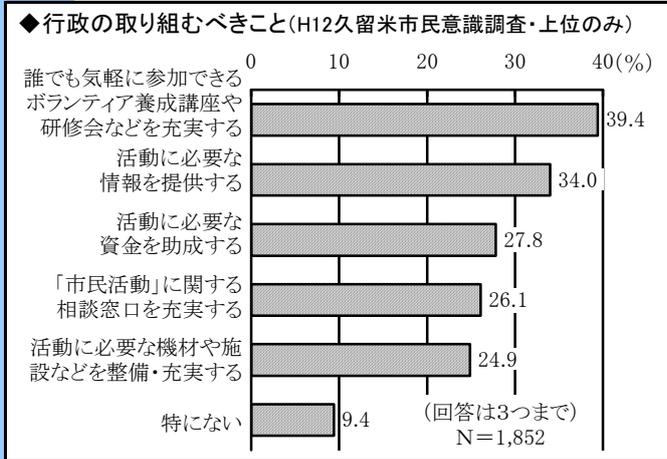
性別×年齢別	居住年数別			
	男性	女性		
20歳代	73.9	76.2	5年未満	75.5
30歳代	82.1	74.6	5～10年未満	71.1
40歳代	66.7	67.3	10～20年未満	72.1
50歳代	69.8	68.2	20～30年未満	69.6
60歳代	63.3	62.4	30～40年未満	70.5
70歳以上	57.3	55.3	40年以上	53.4
居住形態別		近所づきあい別		
持ち家・一戸建て	65.6	毎日でもお互いに家を行き来する	42.1	
持ち家・集合住宅(分譲マンション)	68.8	ときどき家を訪問する	45.5	
借家住宅・一戸建て	82.3	会えば世話を焼く	58.5	
賃貸住宅・アパート、マンション	75.6	会えばあいさつする	75.4	
勤務先給与住宅(公務員住宅・社宅・寮など)	71.4	つきあいはない	82.9	
間借り・同居、その他	59.4	全体	68.7	

それでは、どのようなきっかけで活動に参加したのでしょうか。「人に頼まれたから、または順番がまわってきたから」と「自分や家族の生活に関わりがあり、その活動に興味をもった」の2項目が多い。「依頼・輪番」と「自発的な参加」という2つの基本的な参加パターンである。

■ 「ボランティア養成講座や研修会」などのきっかけづくりが充実

ボランティア活動やNPO活動の推進について行政が取り組むべき施策をみてみよう。

「活動に必要な情報を提供する」が 28.3%と最も多く、「活動する市民や団体の紹介など、広報・PR活動を支援する」、「活動の資金を助成する」、「活動に関する相談窓口を充実する」の4項目が 20%を超える。「情報」「広報」「資金」「相談」に関する項目が上位となっており、「ボランティア養成講座や研修会などを充実する」、「リーダーとなる人材を養成する」など、「人材育成」に関する項目がその次にあげられている。



選択肢の数が違うため単純な比較はできないが、平成 12 年の調査結果では「ボランティア養成講座や研修会などを充実する」が最も高かったことを考えると、今回低下したのは行政の努力によりその充実がはかられたためと言えそうである。ただし、見方を変えると特に高い要望がなくなり、要望の内容は多岐に渡るようになったとも

いえる。今回最も高い「情報提供」をいかに充実させるかは今後の課題であろう。

ボランティア・NPO 活動参加経験別でみると、「活動の資金を助成する」「リーダーとなる人材を養成する」の2項目は、「参加経験なし」と「参加経験あり」で要望の度合いに大きな差異がみられる。参加経験の有無、具体的な経験によって、意識に差がうまれており、各々に対応した施策の検討が必要だといえる。

◆行政の取り組むべきこと (経験有無別・上位5位と特にない) (%)

	参加経験あり (%)	参加経験なし (%)
活動に必要な資金を助成する	32.5	19.2
活動に必要な情報を提供する	31.0	27.7
リーダーとなる人材を養成する	27.6	15.4
活動する市民や団体の紹介など、広報・PR活動を支援する	24.0	25.9
ボランティア養成講座や研修会などを充実する	22.8	18.0
特にない	5.0	19.9

■市民による活動の満足度の向上には、楽しさややりがい、個人の尊重が求められる

次に、地域で行われる活動をふくめた市民による活動（市民活動）について考察することにしよう。活動への参加頻度をみると、「週に2回以上」から「月に1回程度」までを合計した「月に1回以上参加」の比率が 12.4%、「年に数回程度」が 31.7%、「年に1回程度」が 10.2%となっている。「まったく参加しない」は 42.1%である。

活動に参加した人に、「よかった、役に立った」と思うかとその満足度を尋ねると、「思う」と「そう思う」の合計 82.9%の人が満足している。これに対し、「思わない」と「あまり思わない」の合計 14.7%は不満である。「思う」と答えた、高い満足度をもつ人についてみてみると、参加頻度が増えるほど活動満足度が高くなっている。

さらに、活動に参加して「よかった、役に立った」と思った人にその理由を尋ねたところ、「自分の住んでいる地域の人たちと親しくなることができた」と「自分の住んでいる地域をよくすることができた」の2項目が高い。活動満足度には、「自分の住んでいる地域」がキーワードとなっていることがうかがえる回答傾向である。

一方、身近な地域での活動から全市的な活動への発展の可能性をうかがうことができる項目として、「自分自身の勉強になり、楽しみ、やりがいを感じた」や「共通の意識をもった人たちと知り合うことができた」、「地域にはあまりとらわれない、広い意味での社会をよくすることができた」の3項目について

◆市民活動に参加してよかったと思ったこと

	感じに自 じ、な分 たやり自 り、身 が楽の いし勉 を強		で知も共 きりっ通 た合たの う人意 こた識 とちを がと		と会広と地 がをいら域 でよ意わに きく味れは たすでなあ るのいま こ社、り		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
全体	22.7		21.3		9.6		
性別×年齢別	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20歳代	42.9	29.2	21.4	29.2	21.4	8.3	
30歳代	27.1	22.2	27.1	14.8	12.5	4.9	
40歳代	24.6	24.4	30.8	14.4	9.2	3.3	
50歳代	12.0	17.2	19.6	17.2	10.9	13.1	
60歳代	16.9	26.3	19.1	17.2	5.6	15.2	
70歳以上	29.4	25.0	39.2	26.6	9.8	7.8	
参市 加民 頻活 度動	月1回以上	43.1		38.6		14.4	
	年数回	16.1		17.3		7.8	
	年1回程度	15.8		9.8		8.3	

社会をよくすることができた」の3項目について
 みてみよう。「自分自身の勉強になり、楽しみ、やりがいを感じた」は、活動に「月1回以上」参加する人の43.1%に対して、「年数回」と「年1回程度」は15~17%となっており、大きな差がみられる。「共通の意識をもった人たちと知り合うことができた」や「地域にはあまりとらわれない、広い意味での社会をよくすることができた」でも同様に差がみられる。このことから、日頃からボランティア活動等に関わっている人とそうではない人とで、満足の内容や理由が異なることがうかがわれる。

それでは、活動に参加して「よかった」「役に

立った」と思わなかった「不満派」の人はどのような理由からそう感じたのであろうか。
 「不満派」は14.7%と少ないため、上位の項目についてだけみることにする。その結果は、「楽しいと思える活動ではなかった」と「やりがいを感じる活動内容ではなかった」の2項目が多い。性別では、「やりがいを感じる活動内容ではなかった」は男性の方が高い。女性で高いのは「個人の希望も聞かずに役割を分担させられた」で、全体は13.6%と少ないが、男性(7.6%)より女性(20.6%)の方が13ポイントも高くなっている。この結果からは、活動にはまず楽しさが求められる上で、男性は「やりがい」、女性は「個人の尊重」が活動の満足度を高めるキーワードであることがわかる。活動をすすめていく際には、活動の目的や内容を明らかにし、固定的な役割分担の押しつけにならないよう留意することが大切であろう。

■市民活動の活発化のキーワードは、「興味」「気軽に」「身近な」

最後に、市民活動に対する意識について考察することにしよう。

まず、市民活動の印象からみてみよう。複数回答形式ではあるが、選択肢としては、「親しみやすさ」「生きがい」「楽しさ」「公益性」「担い手」「自発性」「必要性」の7項目について賛否のセットを提示して尋ねた。プラスイメージとして取り出された項目は、「公益性」「生きがい」「楽しさ」で、これに対し、マイナスイメージは、「担い手」「親しみやすさ」の2項目である。

残る「自発性」「必要性」の2項目については、賛否の差は小さい。むしろ、複数回答形式にもかかわらず、この項目セットに回答する比率が小さかったことが重要な知見である。とりわけ、「活動がなくなったら困る」の10.4%と「活動がなくなっても困らない」の9.4%は、ほぼ同率というよりその「必要性」に合計2割の市民しか回答していないことの意味が大きい。市民活動自体が、よく言えば「空気のような存在」、悪く言えば「他

人事」「他人任せ」になっていることをうかがわせる。

今後の参加意向をみてみよう。「積極的に参加したい」と「機会があれば参加してもいい」を合計した参加意向を持つ人は 68.1%である。性別・年齢別では、男性の 20 歳代（74.8%）や女性の 40 歳代（73.8%）で高く、4人のうち3人近くの人が参加意向を持っているという結果となった。

市民活動への参加者の拡大のためには、「機会があれば参加してもいい」と答えた人にとってどのような「機会」を提供すれば実際の活動に参加するかという施策が必要である。

そこで、「機会があれば参加してもいい」と答えた人についてみてみよう。ボランティア・地域活動に「月1回以上」参加する人では、「積極的に参加したい」が 13.5%と高いため「機会があれば参加してもいい」は 69.5%にとどまるが、「年数回」や「年1回程度」では7割台と高い。一方、「まったく参加しない」では 53.4%と半数程度である。現実の活動参加（行動）が、次の参加意向（意欲）を生むプラスの連鎖が強く働いている。

		積極的 に 参加 したい	機会 があれば いい	合計
参 市 加 民 頻 活 動	月1回以上	13.5	69.5	83.0
	年数回	2.8	77.0	79.8
	年1回程度	1.6	72.8	74.4
	まったく参加しない	0.7	53.4	54.1

市民活動の活発化方策については、「興味を持てる活動があれば」が最も多く、「ひとりでも気軽に参加できれば」など4項目がほぼ同率で並んでいる。「興味」「気軽に」「身近な」などが活発化のキーワードと考えられる。

「地域の問題に対して行政と市民・地域団体が協働・役割分担してそれぞれに主体的に取り組むべき」という意見への賛否を尋ねた結果は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計 64.4%が賛成している。これに対し、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計 10.1%が反対している。「わからない」が 23.1%と多い。

積極的に「そう思う」と答えた人についてみてみよう。性別・年齢別では、男性の 20・40 歳代が 2 割強と高く、女性の 30～40 歳代で低くなっている。ボランティア・地域活動参加頻度別でみると、「月1回以上」では 24.7%、「年数回」が 14.7%、「年1回程度」が 10.9%、「まったく参加しない」が 11.9%である。

また、「わからない」は、性別・年齢別では、男性の 70 歳以上や女性の 50 歳以上で高い。活動参加頻度別では「月1回以上」では 9.9%、「年数回」が 16.1%、「年1回程度」が 17.4%、「まったく参加しない」が 33.6%と、ここでも参加経験の有無や頻度で意識の差が出ている。

市民活動についての調査結果全体の特徴として、実際に市民による活動に参加すればするほど、その重要性の認識や参加意向が高まっていく傾向がみられる。「まずは、活動に参加するところから始まる」ということの重要性をあらためて指摘しておこう。

分拆者から ひとこと

昭和62年、福岡県地域福祉振興基金によって「福岡県のボランティア・地域福祉実態調査」が行われた。調査は、鈴木広九州大学教授(当時、後久留米大学教授)の指導の下実施され、福岡市、北九州市、飯塚市、久留米市で事例調査等が行われた。調査にあたって、鈴木氏は次のとおりその目的を記している。

「現在、一つの国民的課題としてボランティア社会の構築が提起されているが、その実現のためには、いくつかの解決されるべき問題ないし阻害条件がある。しかし最も基本的な問題は、英米のように早くから産業化・都市化が進んで流動型の個人主義的な社会を形成し、またそれに対応した社会倫理を、キリスト教的伝統の一つの帰結としてつくり上げてきたのにくらべて、日本では産業化・都市化が後発して進み、家族ないし親族の結合が強固に存続して、土着型の集団主義的な社会が基軸をなしてきたので、図式的な表現をすれば、家族・親族中心的な集団主義の社会倫理が、個人主義的なボランティア思想といろいろな意味においてくい違う面があったという、いわば社会類型の違いという問題である。…今や地域福祉の推進は重要な課題であるが、それは具体的には、現に少数者によって実践されているボランティア活動(主に施設中心的、障害者対象的な)と、伝統的な流れの中の共同体慣行的な諸活動や諸団体とを、どのようにして結びつけていくか、という問題として再提起されうるだろう。非常にむずかしい問題である(1頁)。」

ボランティア調査が行われた昭和62年は、高齢化の急速な進展のなかで昭和55年以降の行財政改革の視点から福祉制度改革が進められ、「高齢者保健福祉推進10カ年戦略(ゴールドプラン)」が策定される、「施設福祉から地域福祉へ」という社会福祉枠組みの大きな変動が進んだ時期である。そして、「地域福祉」「在宅福祉」の下に多様な福祉サービスを供給するため、各市町村は「ボランティア」という担い手の育成問題に直面していた。鈴木氏の問題提起は、「ボランティア」を「市民活動」に変換するだけで現

代的課題になる。すなわち、「現に少数者によって実践されている市民活動と、伝統的な流れの中の共同体慣行的な諸活動や諸団体とを、どのようにして結びつけていくか、という問題として再提起されうるだろう。」そして、まさにそれは「非常にむずかしい問題である。」今振り返って、23年前の鈴木氏の炯眼(けいがん)に驚くばかりである。

平成7年1月に発生した「阪神・淡路大震災」は、市民生活そのものの存立に大きな衝撃を与えた。まず、地震災害による激しい生活破壊として、そしてその支援活動を通じた「ボランティア活動」から「市民活動」へという、新たな運動枠組みの登場として、である。このことが浮き彫りになったのが、同年に発表された経済企画庁の諮問機関、国民生活審議会の「報告」である。報告では、ボランティアなど非営利部門の社会的役割は、市民が自らの手で構築し、柔軟に社会を変革していく点とした。そのうえで、「民間非営利セクター」を政府・行政セクター、企業等の営利セクターと区分し、市民の自由意思に支えられた独立したセクターと位置づけた。さらに、平成10年には、特定非営利活動促進法(通称NPO法)が施行され、「もうひとつの『公共』を担う主体」として「民間非営利組織(NPO)」の法人化が認められることになった。

こうした社会システムの変動や市民主体形成の課題を踏まえると、「市民活動」を推進するためには、「参加・啓発」「連携・協働」「自立・運営」という3つのステップが必要なことがわかる。すなわち、多くの市民に市民活動へ「参加」してもらうためにはどのような「啓発」が求められるかに関わる「参加・啓発」、次に「参加」した市民個人と地域の諸団体などとの「連携」体制をつくり上げ、学校、コミュニティセンター、行政機関も巻き込んだ「協働」をどのように進めるかに関わる「連携・協働」、最後に市民活動団体(NPO)間の「つなぎ役」を果たす「市民活動ネットワーク会議(仮称)」の組織化など、ヒト(人材)・モノ(資金)・コト(地域ビジョン)の「自立」に向けた「運

営」に関わる「自立・運営」というステップである。
 そのそれぞれで、行政に期待される「支援」の内容が異なる。今回実施された市民意識調査のテーマ課題となった「中心市街地活性化」「環境」、そして「行政施策」「教育」も、こうした市民活動の事業として、さらにはコミュニティビジネスの可能性として展望される。市民活動の推進は

今後重要な市民的課題となっていくことだろう。また、こうした市民主体を創り出す施策が求められている。市総合計画の「都市像」、「市民一人ひとりが輝く都市」とはそのことを意味している。市民活動に参画し、市民一人ひとりの「笑顔」がにっこりと輝くまちを目指したい。

市民活動サポートセンター **みくる** をご利用ください

市民活動サポートセンター みくるは、市民活動の拠点として活用していただくための施設です。

例えば・・・

ボランティアを始めたい

→ 市民活動に関する様々なご相談にスタッフがお答えします。

団体の会議を開きたい

→ 会議室（有料）をご利用ください。少人数での打ち合わせには交流スペース（無料）もご利用できます。

チラシや会報を作りたい

→ 印刷機・紙折機などを備えた作業室を準備しています（一部有料）。



また、みくるでは市民活動に関する各種講座も行っています。気軽にご参加ください。

市民活動(NPO・ボランティア活動・地域活動)で活躍中の方、活動にちょっと興味がある方の気軽な交流会
「みくる合同懇親会」は毎月10日開催です！
《日程が変更となることがございますので事前にお問い合わせください》

久留米市市民活動サポートセンター みくる

(指定管理者：特定非営利活動法人久留米市民活動支援機構)

・開館時間

月曜日～土曜日 10時～21時

祝日・日曜日 10時～19時

・休館日／毎月第3水曜日(祝日の場合は、翌日)

12月29日～1月3日

〒830-0031

久留米市六ツ門町7-13 六ツ門ビル1階

[電話] 0942(30)9067

[ファックス] 0942(30)9068

[電子メール] kcsc@hig.bbq.jp

[ホームページ] <http://sc.kcso.jp/>

